

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0150280089		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲苑なえぼ		
所在地	札幌市東区北7条東18丁目105-23		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0150280089-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・鉄筋2階建て造りの1階部分が生活空間となっており、2ユニットお互いが自由に往来でき、入居者様はもちろん職員同士の連携が取れ、明るく広々とした空間の中で入居者様が自由に生活が出来る。
 ・同じ敷地内には、老人保健施設が併設しており、合同で行事等を行い、一緒に参加することで外との交流が身近に取れやすい環境となっている。
 ・防災設備や緊急時の体勢がしっかりしている。母体が札幌東徳洲会病院で医療連携もはっきりしており、安心して生活を送ることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 徳洲苑なえぼ」はバス停から近く、広い敷地内にある系列の老人保健施設と隣接し、周囲には大型店舗や公園がある。平屋建ての2ユニットの中間に事務所があり、全体を把握できる支援体制で協力合っている。居間は広々しており、食卓テーブルとソファ席を分けて、ゆったり過ごせるように工夫している。医療法人病院を母体に平成18年に開設した当事業所は、病院や系列施設のバックアップを基に運営体制を整え、書類の整備、健康管理、防災対策、行事、職員教育などが充実している。また大きな組織での協力体制は、本人、家族の安心につながっている。利用者は老人保健施設の行事に参加し、地域の子供やボランティアによる催しを通して交流を楽しんでいる。職員は年間を通して法人研修に参加し、また施設で行われている職員救急救命訓練を受講するなど、利点を活かして学んでいる。年度初めに理念を再確認し、全体とユニット毎の目標を毎年職員間で話し合い、理念と目標を意識してケアに取り組んでいる。スタッフ会議では司会を交代し全員の意見が反映できる仕組みを作っている。管理者と職員は、日々家族とコミュニケーションを密にして、利用者の状態に沿って丁寧に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(ユニット 朝日アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・明るく家庭的な雰囲気を大切にします。・地域に根ざし、豊かに暮らせる環境を大切にします。・自分らしく健康に暮らせる生活を大切にします。以上をホーム理念とし、人を思う心を忘れずに！を全体で、誰にでも同じ様に笑顔で接しましょう！をユニット目標としている。	年度初めに事業所理念を見直し、現在の状況に適切な内容になっているかを話し合い理解を深めている。また1年毎に全体目標とユニット目標を作り、毎朝唱和を行い意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には加入していないが、地域の小学校や町内の催し、当施設での催しなどに、お互い声を掛け合い交流している。	地域の事情で町内会には未加入であるが、連合町内会長の協力は得られている。地域のお祭りに参加し、系列の老人保健施設で行われる、ボランティア、幼稚園児、小・中学生による催しに参加して楽しんでいる。今年から事業所独自に、月2回のボランティア訪問を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で毎月多種多様の講演会を開催し、その内3～4回は認知症を取り上げた講演を行い、認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、現況報告や意見交換を行いサービスの向上に努めている。	地域包括支援センター職員、地域の民間活動グループ担当者他、多数の家族参加で会議を開催している。各報告が中心になっているので、今後は防災対策も含め、意見・情報交換の場としてさらに会議内容の充実を図りたい意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	全市や東区で開催される管理者会議に必ず参加し、必要時には連絡を取り合い、運営推進会議には包括支援センターより参加していただき助言等をいただいている。	不明な点があれば、電話やFAXで市・区の担当者を確認しているが、書類提出時には持参して関係を築くよう努めている。区の担当者とは介護認定の更新申請などで連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、虐待・身体拘束の研修を定期的に行い、虐待・身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	法人研修や外部研修に参加した職員は全体会議で身体拘束の弊害について伝達講習を行い、職員間で内容を共有している。上から目線の言葉がけなどに注意を払い、自由な行動を見守っているが「禁止の対象となる具体的な行為」の把握が十分とは言えない。	マニュアルに「禁止の対象となる具体的な行為」の項目を追加し、勉強会などで、さらに理解を深めるような機会を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、虐待・身体拘束の研修を定期的に行い、虐待・身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。又、傷・あざ報告書から、不審な傷やあざがないかを観察し、必要時にはカンファレンスを通じて原因を追求し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し学んでいるが、現段階では該当する例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、不安や疑問が無いかの確認をし、理解・納得を図っている。改定等は運営推進会議を通じ皆様に周知するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時を通じ意見を聞き出すよう心がけ、年一回事業所で行っているアンケートに答えていただき反映させている。	毎年本部で実施しているアンケート結果を受けて、運営推進会議や通信で報告している。必要な時は事業所独自でアンケートを行うこともある。意見などは連絡ノートなどで把握しているが、さらに共有化を図るため、分かりやすい記録の方法を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に会議を開催し意見交換の場を設け、反映するよう努めている。	スタッフ会議の司会を交代で行い、担当職員は参加できない職員の意見を収集し、全員の意見が反映できるように努めている。管理者は定期的な個人面談の機会に、個人的な要望や相談に乗って職員が働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の会議や定期的に個人面談を行い意見を聞きだし、働きやすい職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適した外部研修には参加できるよう努め、施設内研修には全員参加を促し、参加できない場合は参加した者が伝達講習を行いみんなに周知するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全市や東区で開催される管理者会議に参加し、同業者との交流やサービスの向上に必要な連絡を取り合い質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の家庭環境、本人に関することを事を知り、本人の希望や話を傾聴し、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時より徐々にご家族の悩み、不安、要望などを傾聴し、面識を深め、安心できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の必要とする要望を尊重しながら、出来る範囲内で対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において一緒に出来そうなところは、出来る限り行動を共にし生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を交換し、現況を伝え、面会や行事を通じて共有の時間を過ごすしていただけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等には気軽に立ち寄っていただけるよう努め、立ち寄り可能な場所については機会があれば訪問できるよう努めている。	時には、以前に利用していたサービス事業所の知人が来訪することもある。家族の支援でデパートや馴染みの店へ食事に出かけている。知人からの電話を取り次いでいるが、馴染みの関係や場所などの関心が徐々に少なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ介入の下、入居者様同士しが、会話やレクレーション、作業を通じて交流が保てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先を訪問し様子を伺い、必要に応じご家族の相談や支援等のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人の話を傾聴する時間を設けたり、日常会話の中から思いを汲み取れるよう努めている。困難な場合は、出来る限り本人の立場からの思いを尊重するよう努めている。	フェイスシートに生活歴や好みなどの情報を収集し、その後の新しい情報はアセスメントに追加している。利用者との会話や日々の様子から得た思いをケアプラン会議で話し合い、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人、入居前のサービス利用先等より情報を提供していただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重し、自由な時間を過ごせるように努め、自ら参加できるような環境づくりに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、他職種より情報収集を行い、月に一度ケアプラン会議の場で情報交換を行い、本人の目標達成に向けた介護計画を作成をしている。	介護計画の見直しは、計画作成者を中心に3か月毎に実施している。職員の意見を参考にモニタリングを行い、ケアプラン会議で意見交換後に更新計画を作成している。今後は職員もモニタリング記録ができるような仕組みを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや介護記録、ケアプラン会議等で情報交換を行い、実践、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン、サービス内容等の状況に応じて変化できる介護計画の作成に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2~3回音楽療法のボランティアに来苑していただき、楽しい時間を過ごしていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望の下、適切な医療を受けられている。	家族の希望で、ほぼ協力病院の訪問診療と訪問看護との連携で健康を管理している。かかりつけ医を継続している数名の利用者は主治医の協力で訪問診療に切り替えて治療を継続している。専門的な他科受診には職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来苑し状況を説明、また、体調に異変があった時には電話で適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には出来る限り面会に行き、面会できない場合は電話などで病院関係者と情報交換を行い、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より入居者様の状況を説明し、重度化や終末期の前兆が現れた早い段階で本人・ご家族と何度も話し合い、事業所で出来ることを十分に説明し、希望に沿えるように努めている。	利用開始時に重度化した場合と看取りの対応指針を文書で説明し、看取りに関する同意書は、主治医の判断の下で看取りを希望する場合に取り交わしている。個人別の記録で管理し、方針や経過を把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、日頃よりマニュアルを見てイメージトレーニングが出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を行い、日頃よりマニュアルを見てイメージトレーニングが出来るよう努めている。東区で構築されている、災害時要援護支援ネットワークへ参加し、地域との連携体制を築いている。	消防署立会いの下、系列の老人保健施設と合同で、夜間を想定した火災避難訓練を実施している。緊急時には連合会長の指揮のもとで住民の協力も得られる。災害時の備蓄品類は保管しているが地震時などの対応は今後の課題である。	地震などの災害を想定し、職員間でシュミレーションを行うなど、ケア別の対応も含めて安全面の確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームでの全体目標“人を想う心を忘れずに”ユニット目標“誰にでも同じ様に笑顔で接しましょう”を毎朝唱和し、意識付けをしている。	利用者に対する接遇研修を行い、言葉使いや対応に配慮している。記録はスタッフコーナーで行い、書類は鍵のかかる棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、本人の意思を尊重し、表出できる環境になるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先し、自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人の意思を尊重するように支援している。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを考慮しながら献立を立て、職員の見守りの下、野菜の下ごしらえや盛り付け、配膳、後片付けをしている。	献立は、曜日毎にメインの食材を決めて職員が作成している。本人の誕生日に好きな献立にしたり、年数回、寿司などの出前を楽しんでいる。畑で収穫した野菜が、食卓に上がる事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、その時の体調に合わせて、形態や味付け、内容を変えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、うがいが出来ず介助が必要な入居者様には口腔ケア用ウエットティッシュを用意してケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた声掛けを行っている。	利用開始時のみ排泄チェック表に記録してパターンを把握し、その後は、声かけが必要な利用者のみ記録している。日中はトイレでの排泄を基本に、2人介助での支援も行っている。季節や状態に応じて、布パンツを使用したりパットを調節している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使った献立や、毎食後ヨーグルトを提供、ヨーグルトが嫌いな方にはバナナを提供、その他プルーンやオリゴ糖など取り入れ、便秘予防体操などを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上ある程度の時間や曜日は決めさせていただいているが、体調や希望により変更可能な状態になっている。	日曜日以外の午後に入浴を行い、週2回入浴できるように支援している。皮膚の状態や希望に応じて、2回以上入浴する事もある。入浴剤を変えたり、利用者に応じて音楽などを流しながら入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活習慣や状況に応じ休息を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の病気と内服薬の内容を把握し、副作用についても理解できるよう確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人に合った役割分担の提供を支援している。誕生日には、本人の希望で献立や外出等の計画を立てている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気に応じ、散歩や買い物等外出する機会を設けている。時には、ご家族の協力を頂きながら支援している。	冬季以外は、玄関先で外気浴をしながら体操をしたり、敷地内を散歩している。数人ずつのグループで、近隣の公園でお花見を楽しんだり、近くで開催される「よさこい」の見学に出かけている。冬季は、敷地内にある法人施設の行事に出かけたり、希望に応じて個別の買い物に出かける事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しく、ご家族の希望により施設で管理している。買い物を希望された時には、一時立替で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときには対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、フロア内は季節感のある飾り付けを楽しめるよう工夫している。	各ユニットの居間から中庭をのぞむ事ができ、室内から季節の花や木々の移り変わりを楽しむ事が出来る。玄関や居間のテーブルなどに花がたくさん飾られ、壁には、紅葉などの装飾を施すなど、季節感のある共用空間になっている。広々とした室内で、食堂と居間が分かれているため、各利用者は、ソファなどでゆっくり過ごす事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるリビング内で自由に過ごしていただけるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類や装飾は、ご家族に用意していただいている。本人にとって危険が無いように支援している。	ストーブのみ備え付けられており、室内には、本人の使い慣れたタンスなどの家具類や縫いぐるみなど、馴染みの物が持ち込まれている。利用者の状態に応じて装飾や家具の配置を考慮し、危険がなく安心して過ごせるような居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険要素を出来るだけ限り排除する様心掛け、場所の見当識のある方のためには目印などで判るよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0150280089		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲苑なえぼ		
所在地	札幌市東区北7条東18丁目105-23		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット 朝日」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0150280089-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年9月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ユニット 夕日アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・明るく家庭的な雰囲気を大切にします。・地域に根ざし、豊かに暮らせる環境を大切にします。・自分らしく健康に暮らせる生活を大切にします。以上をホーム理念とし、人を思う心を忘れずに！を全体で、入居者様の問い掛けに笑顔で答えましょう！をユニット目標としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には加入していないが、地域の小学校や町内の催し、当施設での催しなどに、お互い声を掛け合い交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で毎月多種多様の講演会を開催し、その内3～4回は認知症を取り上げた講演を行い、認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、現況報告や意見交換を行いサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	全市や東区で開催される管理者会議に必ず参加し、必要時には連絡を取り合い、運営推進会議には包括支援センターより参加していただき助言等をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、虐待・身体拘束の研修を定期的に行い、虐待・身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、虐待・身体拘束の研修を定期的に行い、虐待・身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。又、傷・あざ報告書から、不審な傷やあざがないかを観察し、必要時にはカンファレンスを通じて原因を追求し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し学んでいるが、現段階では該当する例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、不安や疑問が無いかの確認をし、理解・納得を図っている。改定等は運営推進会議を通じ皆様に周知するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時を通じ意見を聞き出すよう心がけ、年一回事業所で行っているアンケートに答えていただき反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に会議を開催し意見交換の場を設け、反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の会議や定期的に個人面談を行い意見を聞きだし、働きやすい職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適した外部研修には参加できるよう努め、施設内研修には全員参加を促し、参加できない場合は参加した者が伝達講習を行いみんなに周知するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全市や東区で開催される管理者会議に参加し、同業者との交流やサービスの向上に必要な連絡を取り合い質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の家庭環境、本人に関することを事を知り、本人の希望や話を傾聴し、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時より徐々にご家族の悩み、不安、要望などを傾聴し、面識を深め、安心できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の必要とする要望を尊重しながら、出来る範囲内で対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において一緒に出来そうなところは、出来る限り行動を共にし生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を交換し、現況を伝え、面会や行事を通じて共有の時間を過ごすしていただけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等には気軽に立ち寄っていただけるよう努め、立ち寄り可能な場所については機会があれば訪問できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ介入の下、入居者様同士しが、会話やレクレーション、作業を通じて交流が保てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先を訪問し様子を伺い、必要に応じご家族の相談や支援等のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人の話を傾聴する時間を設けたり、日常会話の中から思いを汲み取れるよう努めている。困難な場合は、出来る限り本人の立場からの思いを尊重するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人、入居前のサービス利用先等より情報を提供していただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重し、自由な時間を過ごせるように努め、自ら参加できるような環境づくりに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、他職種より情報収集を行い、月に一度ケアプラン会議の場で情報交換を行い、本人の目標達成に向けた介護計画を作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや介護記録、ケアプラン会議等で情報交換を行い、実践、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン、サービス内容等の状況に応じて変化できる介護計画の作成に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2~3回音楽療法のボランティアに来苑していただき、楽しい時間を過ごしていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望の下、適切な医療を受けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来苑し状況を説明、また、体調に異変があった時には電話で適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には出来る限り面会に行き、面会できない場合は電話などで病院関係者と情報交換を行い、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より入居者様の状況を説明し、重度化や終末期の前兆が現れた早い段階で本人・ご家族と何度も話し合い、事業所で出来ることを十分に説明し、希望に沿えるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、日頃よりマニュアルを見てイメージトレーニングが出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を行い、日頃よりマニュアルを見てイメージトレーニングが出来るよう努めている。東区で構築されている、災害時要援護支援ネットワークへ参加し、地域との連携体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームでの全体目標“人を想う心を忘れずに”ユニット目標“入居者様の問い掛けに笑顔で答えましょう”を毎朝唱和し、意識付けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、本人の意思を尊重し、自己決定がしやすいように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先し、自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人の意思を尊重するように支援している。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを考慮しながら献立を立て、職員の見守りの下、野菜の下ごしらえや盛り付け、配膳、後片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、その時の体調に合わせて、形態や味付け、内容を変えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、うがいが出来ず介助が必要な入居者様には口腔ケア用ウエットティッシュを用意してケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた声掛けを行っている。また、排泄パターンの把握が困難な入居者様の対応として、サインを見逃さないように心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使った献立や、毎食後ヨーグルトを提供、ヨーグルトが嫌いな方にはバナナを提供、その他プルーンやオリゴ糖など取り入れ、便秘予防体操などを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務上ある程度の時間や曜日は決めさせていただいているが、体調や希望により変更可能な状態になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活習慣や状況に応じ、自由に休息を取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の病気と薬の内容を把握し、副作用についても理解できるよう確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人に合った役割分担の提供を支援している。誕生日には、本人の希望で献立や外出等の計画を立てている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気に応じ、散歩や買い物等外出する機会を設けている。時には、ご家族の協力を頂きながら支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しく、ご家族の希望により施設で管理している。買い物を希望された時には、一時立替で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時に対応するようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、フロア内は季節感のある飾り付けを楽しめるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるリビング内で自由に過ごしていただけるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類や装飾は、ご家族に用意していただいている。本人にとって危険が無いように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険要素を出来るだけ限り排除する様心掛け、場所の見当識のある方のためには目印などで判るよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 徳洲苑なえぼ

作成日：平成 25年 10月 2日

市町村受理日：平成 25年 10月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	マニュアルの中で「禁止の対象となる具体的な行為」を省いていたため、職員の身体拘束への意識が薄れていた。	職員全員が、身体拘束の具体的な理解を深めることができる。	マニュアルの再検討、不足部分の追加、研修会への参加、又は、年2回以上の研修会の開催	1年間
2	35	防火訓練を中心に行っていたが、地震等の災害についての訓練が薄かった。	職員間で災害についての意識を高め、とっさの災害にも対応できるようになる。	ホーム内の危険と思われる部分を職員全員でリストアップし、対応策を考え、実行する。	1年間
3	4	運営推進会議の内容が主に報告会の場になっており、参加者の意見内容(雑談的な部分が多く)報告書に載せていなかった。	参加者の話す内容を報告書にかけるといった内容の話し合いができるようにする。	参加者がどのようなものを求め、どんなことに興味があるのか、退屈しない運営推進会議になるようにアンケートなどで意見を求める。	2年間
4	26	チームで作る介護計画とモニタリングで、どうしても偏った意見になっているところがある。	全員が興味を持って、全員参加の介護計画を作り、同じケア内容での対応ができるようになる。	モニタリングの見直し方法、意見の出しやすい方法を皆で検討する。	6か月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。